

令和元年度 調布市立石原小学校 学校経営計画

学校教育目標

◎根気よく学ぶ子 ○明るく元気な子 ○なかよく助け合う子

目指す学校像(ビジョン)

「子どもたち一人一人を大切に作る学校」

【子どもたちが主役である学校】 一人一人の子どもが大切にされ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体がはぐくまれてゆかなければならない。学校は集団で生活し学ぶ場である。しかし、子どもたちはそれぞれ違う環境で育ち、違う心と個性、願いをもって生きている。個人、個性が大切にされ、子どもたちが自分の居場所を感じられる学校を目指す。
 【教職員が子どもたちを愛する学校】 子どもに対する教職員の愛情を土壌に、子どもたちの「学びたい」「できるようにになりたい」という意欲を種として、日々の授業の充実により、子どもたちそれぞれの力、個性を伸ばしていく。教職員は、子どもたち一人一人の幸せを思い、子どもたちを理解することに努めるとともに、その達成のための手立てを考え、職務を振り返り、改善・工夫のための自己研鑽に努める。厳しくも思いやりのある職員集団として協力・協働していく。

本校の現状と課題

- 明るく元気な子どもが多く、学習や行事に前向きに取り組んでいる。
- 学習意欲はあるが、学習内容の定着にばらつきが見られる。
- 授業規律や基本的な生活習慣、集団生活の態度等を一層身に付けさせる必要がある。
- ◇児童の課題や問題行動について、職員全員で取り組む職場風土が培われている。
- ◆学力向上や生活指導の充実のために、教師の授業力向上・資質向上が必要である。
- ◆個別に支援を要する子どもについては全体で見守り、関係諸機関との連携が必要である。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	学ぶ意欲をはぐくみ、基礎基本を定着させる。	授業スタイルと授業規律を確立し、全校で共有することにより、学習効果を高める。 「外国語に親しみ、学んだことを活用しながらコミュニケーションをとろうとする児童の育成」を図る。	○授業規律「石原スタンダード」(基礎編・応用編)を整備し、徹底する。 ○子どもたちが主体的に活動する授業を目指す。そのために、教員のショートタイム研修会の設定、先行研究や指導法の研究に取り組む。 ○都教委の学校経営研修制度を活用し、新規採用教員の授業力向上を図る。 ○外国語活動・外国語(以下、外国語)において主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組む。 ○調布市教育委員会研究推進校の指定を受け、授業改善を進める(研究授業年間約20本。1月末に研究発表会)。 ○ショートタイム研修や職員夕会での30秒イングリッシュなど、教師自身が外国語に慣れ親しむように努める。	◇学校関係者アンケートにおいて、学習内容の理解や授業の工夫に関する肯定的回答85%を目指す。 ◇「児童生徒の学力向上を図るための調査」において、A・B層を5%以上増やす。 ◇児童アンケートにおいて、英語を好きな子どもの割合を上げる。
健全育成	自律した行動のとれる判断力と、豊かな心を育成する。 安全・安心な学校生活を確立する。	基本的な生活習慣を定着させ、規範意識をはぐくむ。 安全・安心な学校生活を確立する。	○生活指導全体会・生活指導夕会・校内委員会により、児童の状況を共通理解し、生活指導・教育相談の充実を図る。 ○本校の伝統的な活動(あいさつ、6年のスピーチ等々)を継続・充実させる。 ○いしわら教室(校内通級教室)での個別指導により、個々の子どもの「困り感」を解決していく。 ○諸機関と連携し、児童の課題や成育歴を把握し、きめ細やかな生活指導を行う。 【いじめの根絶】 定期的な状況把握、いじめ防止対策委員会の組織的な対応を行い、未然防止と早期解決を図る。 【アレルギー対応】 アレルギー対応のルールの確実な実施とともに、正しい知識を全児童に身に付けさせる。 【防災教育】 防災教育の日の充実。地域との連携。 【登下校の安全確保】 ふじみパトロール隊、PTAの協力を得て、登下校の見守りを充実させる。	◇学校関係者アンケートにおいて、学校のまきりを守ることに肯定的回答85%を目指す。 ◇いじめの早期発見と解決100%を目指す。 ◇アレルギー事故、交通事故0を目指す。
健康・体力づくり	健康保持・体力増進のために考え、判断する力を育てる。	児童の健康・体力増進への関心を高め、健康や体力について考えたり、進んで運動したりする児童を育てる。	○オリンピック・パラリンピック教育推進校の取り組み ①アスリートや障害者を招き、交流・体験活動を充実させる。 ②自覚理解教育、障害理解教育、認知症サポート理解などを推進し、交流を図る。 ③マラソン大会、なわとび大会等に全校で取り組む。また、運動の日常化を図る。 ④オリンピック・パラリンピック賞状ドリル勉強会の開催校として、その活用・普及を推進する。 ○保健計画をもとに意図的・計画的に保健指導、安全指導を行う。	◇学校関係者アンケートにおいて、心や体の健康に関する肯定的回答85%を目指す。 ◇体力向上に関する肯定的回答85%を目指す。
保護者・地域との連携	保護者・地域の教育力を活用して学校の教育活動、児童の安全確保を充実させる。	保護者・地域の方の教育力を組織的・計画的に活用し、教育活動や防災・防犯等を充実させる。 学校の方針・活動について、地域・保護者の理解を得て、学校・地域・保護者がともに児童を見守る関係を構築する。	○保護者・地域の方をゲストティーチャーとして、教科授業や行事を充実させる。 ○ふじみパトロール隊、いしわら軍団、ワンワンパトロール、PTAなどと連携し、登下校見守りや防災訓練の協力を得る。 ○「学校と家庭の連携推進事業」(東京都教育委員会)によりスーパーバイザーとして大学教授を招聘し、指導を得る。 ○保護者会、地区協議会、健全育成委員会、学校開放運営委員会等を通して、学校経営方針や学校の教育活動について、保護者・地域の理解・協力を得る。 ○教職員が、地域行事に積極的に参加していく。	◇学校関係者評価アンケートにおいて、開かれた学校づくり、学校と地域・PTAとの連携に関する肯定的回答90%を目指す。
特色ある教育活動	子どもたち一人一人の個性を大切に、伸ばしていく。	個々の状況に応じた指導、個性を伸ばす指導を行い、一人一人の児童の学力の定着・向上を図る。 文化文芸活動を通して児童の興味関心を広げ、「豊かな心」を育むとともに、「確かな学力」の基礎を醸成する。	○算数習熟度別指導(中高)、算数TT指導(低)を行い、児童の学習状況に応じた細やかな指導を行う。 ○日本語指導担当教員・特別支援教室専門員・スクールサポーター等による授業補助、個別指導を行う。 ○いしわら教室の専門的な指導ノウハウを校内で共有し、各学級での指導・支援を充実させる。 ○地域協力者のサポートを受け、「九九クリニック」「ABCクラス(仮称)」などの補習の場を設け、学力向上を図る。 ○日々の読書指導と読書週間を軸に、読書活動を充実させる。 ○児童の知的関心を高める文化行事を発達段階に合わせて実施する。(コンサート体験、落語鑑賞、演劇鑑賞、読み聞かせ、美術鑑賞、作家による作文教室等々)	◇学校関係者評価アンケートにおいて、児童の学習意欲に関する肯定的回答85%を目指す。